

平成30年度
花巻市地域自治に関する懇談会開催報告書

平成31年3月15日

1 花巻市地域自治に関する懇談会設置の目的

人口減少、少子高齢化が進む現在、地域の課題が多様化・深刻化してきております。そこで、持続可能な地域自治を推進するため、地域自治を担う組織やその制度のあり方について他事例を学びながら、現状・課題を把握し、今後の地域自治のあり方について意見交換を行うことを目的に設置しました。

2 委員等

番号	役 職 等	氏 名	備考
1	岩手大学農学部 教授	広田 純一	座 長
2	花巻市コミュニティアドバイザー	役重 眞喜子	副座長
3	NPO 法人花巻市民活動支援センター 理事長 NPO 法人いわて連携復興センター 代表理事	葛巻 徹	宮野目
4	花巻市社会福祉協議会 花巻支部長	岩渕 満智子	花 巻
5	(一社) かな福祉相談支援事務所 岩手県社会福祉士会理事	高橋 岳志	湯 口
6	花巻家守舎 取締役 (株)Bond Planning 取締役	高橋 久美子	湯 口
7	花巻市地域公民館連絡協議会 会長 高木第三行政区長	伊藤 昇	矢 沢
8	花南地区コミュニティ会議 会長 桜町一丁目行政区長	伊藤 實	花 南
9	宮野目コミュニティ会議 会長 下似内行政区長	高橋 一彦	宮野目
10	外川目地区コミュニティ会議 会長	佐々木 政行	大迫町 外川目
11	大迫町自治公民館連絡協議会 会長 大迫地区コミュニティ振興会 会長	菊池 利和	大迫町 大 迫
12	好地まちづくり委員会 会長 石鳥谷第4区自治会長	岩館 仁	石鳥谷町 好 地
13	北向自主防災会 本部長 北向自治公民館 副館長	菊池 正行	石鳥谷町 八 幡
14	いしどりやワンデースクール代表	板垣 あや子	石鳥谷町 大瀬川
15	成島地区コミュニティ会議事務局長	菊池 和彦	東和町 成 島
16	花巻地域交通安全協会東和支会 支会長 倉沢人形歌舞伎保存会 幹事長	下林 育男	東和町 谷内
17	東和棚田マラソンPlan&Runツアー 2018 実行委員会会長	川村 智子	東和町 土 沢

3 これまでの経過

○第1回懇談会 平成30年10月9日(火)

【講話】花巻市コミュニティアドバイザー 役重 真喜子

「いま、改めて地域づくりを考える」

～この12年で私たちはどこまで来たのか～

【講話内容】

・地域自治に関わる全国的な課題

- ①役員負担の過重⇒担い手の不足
- ②地域のことは地域で⇒行政との分断
- ③交付金の一本化⇒権力の集中

新しい発想・動き
が出てこない

市の全体をみる視
点が出てこない

●地域自治の仕組み「2つのソウイ」とは

地域自治

- * 全員に関わる
- * だから全員でやる
- * 合意・納得が大事
(時間がかかる)



地域づくり

- * この指とまれ
- * 気づいた人からする
- * オリジナリティが大事
(スピード重視)



総意

創意

人口減少と過疎化が進む中、
「地域は何をどこまで」すべきなのか
コミュニティに私たちは何を求めるのか

懇談会資料 (花巻市コミュニティアドバイザー役重真喜子氏資料より引用)

【懇談のポイント】

- ①若い世代の意欲・活動(創意)を後押しするために何が必要か
～交付金のあり方、職員の支援など～
- ②人口減少・高齢化の中で従来の自治(総意)をどう守るのか
～コミュニティ会議の役割、各組織の見直しによる負担軽減～

【懇談から】

* 「総意型」の立場から

- ・ 役員の疲弊、マンネリ化
- ・ 若い世代が参加しない
- ・ ふれあい、交流をメインにやっている

* 「創意型」の立場から

- ・ 地域組織には女性やヨソモノが入りにくい。
- ・ 「コミュニティ地区」限定せず広域で活動したい
- ・ 「これをやりたい」明確なテーマがある

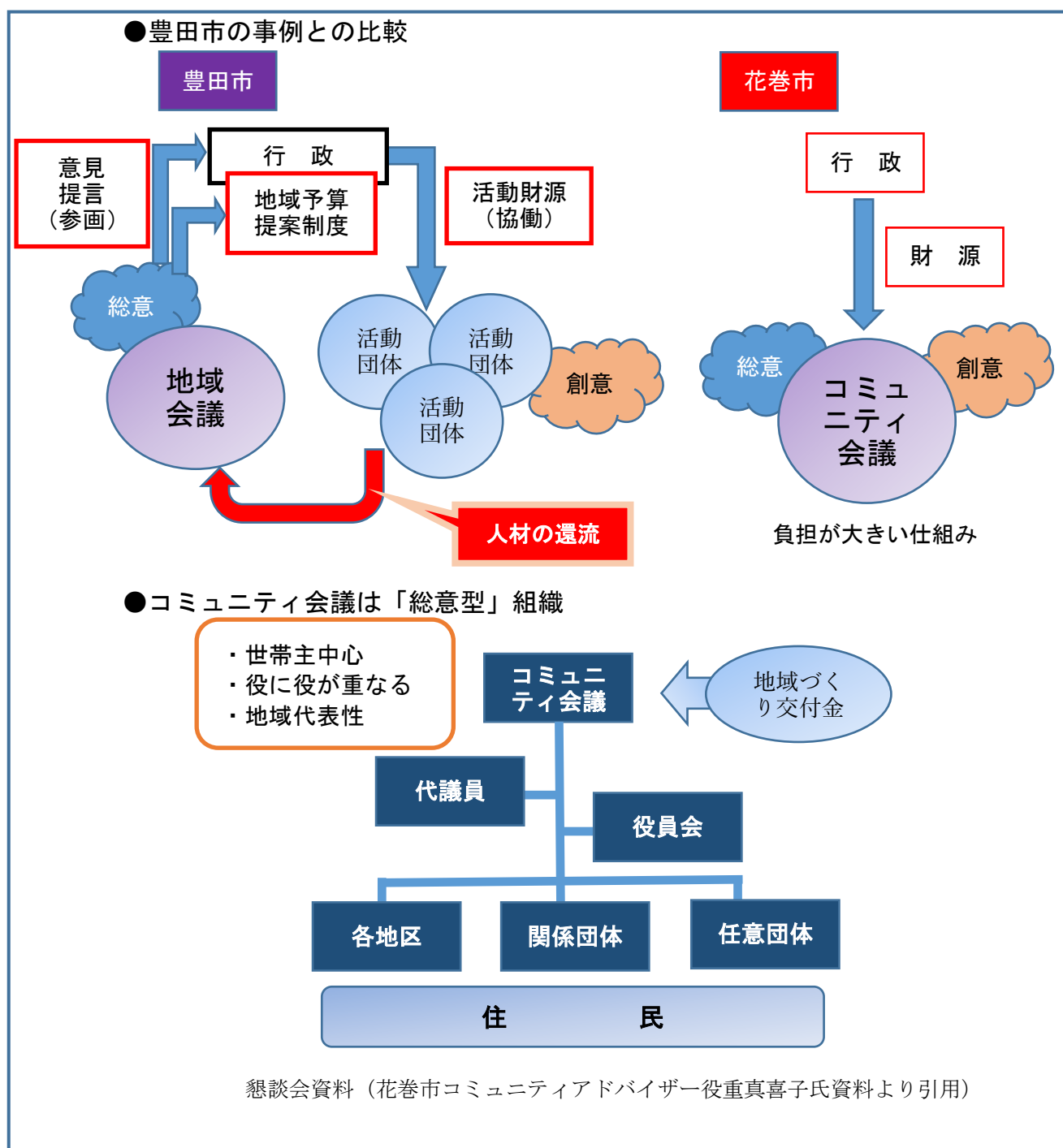
○第2回懇談会 平成30年11月13日(火)

【講話】花巻市コミュニティアドバイザー

「いま、改めて地域づくりを考える」

～見えた課題にどう対応していくのか～

【講話内容】花巻市のコミュニティ会議は「総意」と「創意」を両方行い、負担が大きな仕組みといえる。



●見直しの方向：「抱えすぎ」からの解放

そのために・・・

①創意型活動を生み出す

【疑問】・活動が本当に生まれるか？

- ・広域の活動も可とするか？
- ・コミュニティ会議との連携はどう図るか？
- ・ノウハウや後押しする仕組みは？

②「大きな公共」の仕事を楽にする

【疑問】・これまでの実態、ハード事業の実施格差をどう考えるか

- ・地域の要望の反映はどうするか

③コミュニティの役割を明確にする

(総意) 顔の見える、助け合える関係づくり＝集落や町内会等の機能の補完

1. 地域にしかできないことをしっかり
 2. 自治会単位ではやれない広域の役割
- ＊福祉・防災・自治会町内会支

●行政がやるべきこと

①地域との連携ルートの強化・明確化



島根県雲南市「地域円卓会議」

②地域に出る職員の育成・支援

③総意と創意のファシリテーション（中間支援組織等からのサポート）

懇談会資料（花巻市コミュニティアドバイザー役重真喜子氏資料より引用）

グループワーク：

- ①創意がどんどん眼を出す花巻
 - * どうしたらそうなる？
 - * 課題はどこに？ 行政の役割は？

- ②総意がしっかり守られる花巻
 - * どうしたらそうなる？
 - * 課題はどこに？ 行政の役割は？

○第3回懇談会 平成31年1月15日（火）

【講話】花巻市コミュニティアドバイザー
「地域自治のしくみ見直しの方向について」
～30年度のふり振り返りとまとめ～

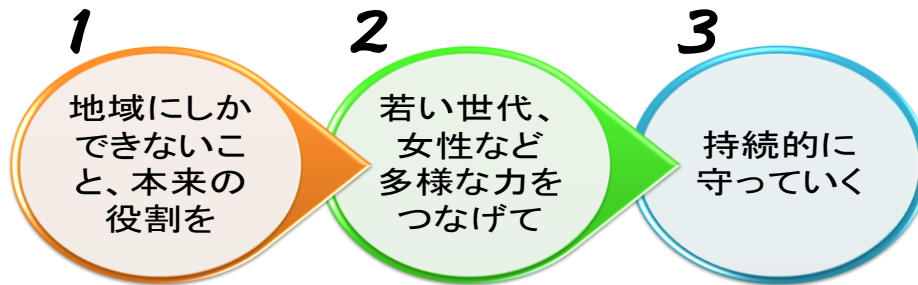
【講話内容】



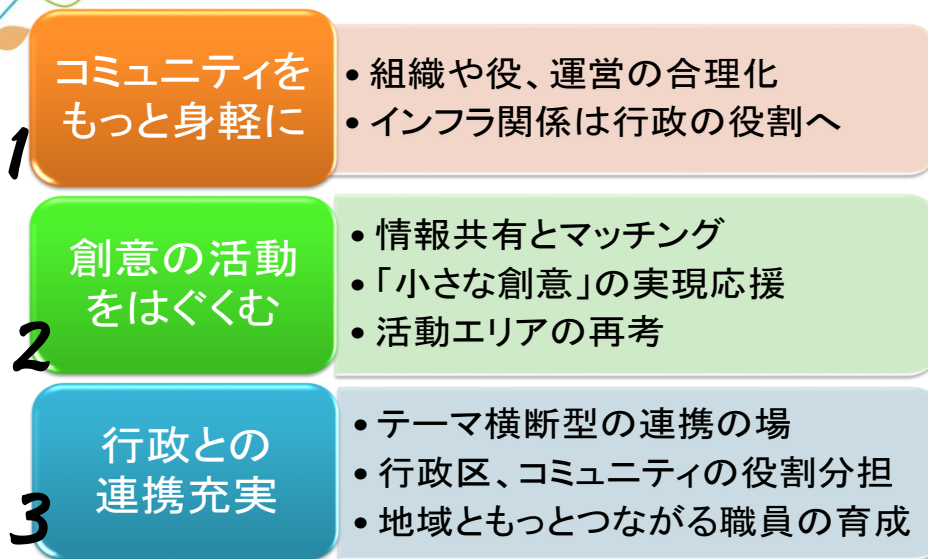
懇談会資料（花巻市コミュニティアドバイザー役重真喜子氏資料より引用）



めざす地域自治のすがた



見直しの方向について



5

懇談会資料（花巻市コミュニティアドバイザー役重真喜子氏資料より引用）

グループワーク：今後の方向について

- ① コミュニティ会議をもっと身軽に
～地域本来の役割を発揮するために～
- ② “創意”の活動をはぐくむ
～「意欲」と「ニーズ」のマッチングのために～
- ③ 行政との連携の充実
～大きな課題に向かって力を合わせていくために～

4 地域自治のしくみについて

～懇談から見えてきた現状・課題、今後の方向について～ 【第1～3回懇談会主な意見】

①コミュニティ会議をもっと身軽に ～地域の本来の役割を発揮するために～

第1回：主な意見（現状・課題）	第2回：主な意見（解決の方向）	第3回：主な意見（今後の方向について）
1 組織・事業の硬直化、多忙感 ・新しい発想が出てこない ・事業、参加者の固定化 ・肩書による充て職が多く、事業実施に支障、負担の増加 ・役員の担い手不足 ・行事が多く大変（事務局、参加者） ・地域の仕事がプロ化しており負担	・組織の存続、行事の実施そのものが目的化していないか ・事業を減らすなどし、若い人が参加しやすいよう見直しもしている	・部会の統廃合 ・事業の見直し ・世代間の研修、人材育成に力を入れていく ・役職、役割のマニュアル化。引き受けやすくする ・コミュニティ会議の役員を公募する
2 各種団体関係 ・コミュニティ会議と各種団体の取組みが重複 ⇔地域の諸団体と連携し事業を分担している ・社会福祉協議会と連携し敬老会、福祉バザーを行っている ・類似の活動団体がある ・行政からの縦割りの仕事の下りてきている	・コミュニティ会議と各種団体が連携することが望ましい	・横の連携を強めていく ・各種団体を整理し役を減らす ・地域の諸団体との連携⇔地域により協力体制が違う。一概には言えない

①コミュニティ会議をもっと身軽に ～地域の本来の役割を発揮するために～

第1回：主な意見（現状・課題）	第2回：主な意見（解決の方向）	第3回：主な意見（今後の方向について）
3 インフラ整備関係 ・道路舗装などインフラ関係は極めて公共性が高く、公平性の面で課題 ・交付金額が少ないとハードができない地区もあり不公平である ・ハード事業（道路舗装、防犯灯など）の将来的な維持管理が問題 ・公民館修繕整備等は、市の補助金は利用しづらいので交付金を活用している。	・住みよい環境づくりのためにはハード事業も必要 ・規模の大きなハード事業は、市へ要望している。 ・豊田市の地域予算制度（地域の要望を市が予算化し実施する制度）のような仕組みが必要	・ハード事業は予算枠を決めて行っている ・地域の要望をスピーディーに解決できる ・地域ごとに課題が違う。コミュニティ会議で行っているハード事業は、行政に要望しても行政が行わない箇所 ・まちづくりは、安心して住める町をどう作っていくか ・地域づくりは人づくり。ハード事業ではなく、人づくりに力を入れていく

② “創意”の活動をはぐくむ ～意欲とニーズのマッチングのために～

第1回：主な意見（現状・課題）	第2回：主な意見（解決の方向）	第3回：主な意見（今後の方向について）
1 意欲のある人を上手に活かしていないのでは？ ①参画の仕組み ・コミュニティ会議や自治会に女性や若者、移住者等は入りづらい ・役職の方だけが集まる部会の雰囲気だと意見をだしづらい ・小さな夢の実現のための意見、小さな困り事があるひとが、コミュニティ会議に来るのか？ ・世代間でのコミュニケーションが難しい ・若い人の地域参加の継続が課題 ・コミュニティ会議が何をしているか知らない ・交付金や補助金の情報も一般には知られていない。 ・意欲があっても忙しい ・若者の参画推進のため富士大学と連携している ②組織の体制 ・役員、役職の人だけ集まっても創意活動は生まれない ・コミュニティ会議の事業は、地域のニーズを把握しているのか？ ・定額交付金はマンネリ化につながり、創意が出づらい	①参画の仕組み ・地域活動に関わっていない人に研修会に来てと言ってもこない。きっかけづくりから ・意見をだしやすい設定、工夫が必要。それにより自分の願いが叶った。小さな夢が実現できた。それが地域に入っていく大きなきっかけとなる ・WSというと人が集まらない。「語りっこ会」と変えた ・PTAなどから若者を集める。 ・よそからきた人を、いかに地域に巻き込んでいくかが大事 ・SNSを利用する ・自分の好きな行事には参加する ・地域活動をポイント制にする ・市民団体等活動支援事業補助金をもっと使いやすく（自己負担、申請手続きなど）	①参画の仕組み ・若者と交流、対話（WS）が大切。顔の見える関係づくりが、地域の助け合いにつながる ・若手実行委員会への支援、女性限定WSなど、何でも話せる場づくり ・コミュニティ会議に誰でも意見を言える場面設定。意見を吸い上げる工夫、仕組みづくりが大切 ・若い人、よそから来た人、誰もが地域に入りやすい仕組みづくり ・笑い、娯楽の要素が近いと人は来やすい ・意欲やノウハウがある人と地域のニーズをマッチングさせる情報共有の仕組みがあればよい ②組織の体制 ・若手を巻き込むには、若手の企画が大事。それをバックアップしていく ・創意を応援する仕組みが必要 ・地域にはどういう創意が必要か。把握する仕組み ・中間支援組織（NPO等）との連携

② “創意” の活動をはぐくむ ～意欲とニーズのマッチングのために～

第1回：主な意見（現状・課題）	第2回：主な意見（解決の方向）	第3回：主な意見（今後の方向について）
2 旧町域の自治やネットワークの再検討 ①コミュニティ会議等 ・昭和30年頃大迫は合併して一つとなった。コミュニティ会議ができ地域の分断が10年間続いた。2年前から大迫地域で連携した事業「料理コンテスト」を実施。これからの交流を深め、つながりを持っていきたい ・大迫地域のコミュニティ会議は行政主導で月1回定期的に会議を開催。その会議では情報交換、市の取り組みについて行政と連携を取っている ・石鳥谷地域では在京町人会に地域の伝統芸能の派遣事業 ・東和地域では講演会を開催 ・石鳥谷：国際交流事業への募集は地域以外の地区にも声掛けしている ・コミュニティ会議で規模が違う ・交付金を使いきれしていない地域もある ・旧花巻地域のコミュニティ会議は、他のコミュニティ会議と連携が少ない ②テーマ（創意）型活動 ・コミュニティ地区の枠を超えた子育て支援等の取り組みをしている	①コミュニティ会議等 ・コミュニティ会議と各団体、旧町域での連携も欠かせない ・旧町エリアでの活動はできると思う⇔活動を広げて支援していくのはコミュニティ会議では難しい。市で支援して欲しい ・コミュニティ会議の連携事業は市で行って欲しい ②テーマ（創意）型活動 ・若い人はもっと広域のつながりで動いている	①コミュニティ会議等 ・コミュニティと各団体、旧町域での連携が必要。 ②テーマ（創意）型活動 ・地域をこえた情報共有や居場所づくりも必要 ・創意型活動を旧町エリアに広げて支援する仕組みを検討していく（コミュニティ地区とNP0、コミュニティ地区同士等の協働など）

③行政との連携の充実 ～大きな課題に向かって力を合わせていくためには～

第1回：主な意見（現状・課題）	第2回：主な意見（解決の方向）	第3回：主な意見（今後の方向について）
1 テーマ横断型の連携 ・旧花巻地域のコミュニティ会議は、他のコミュニティ会議と連携が少ない ・コミュニティ会議同士がお互い何をしているかわからない ・連携はコミュニティ会議によりバラツキがあり、社会福祉協議会と連携がとれないところもある	・テーマ横断型ミーティングのようなものがあるとニーズをつかみやすい。 ・他業種が地域に参入するような運営になると、その地域で乳幼児から高齢者まで賄えるというサービスであったり、地域に力がついてくると思う	・横のつながりがあればいい。 ・テーマ別の連携が充実すれば、「コミュニティ会議をもっと手軽に」「創意の活動」がよくなると思う ・NPO、企業を含むテーマ横断型連携により、若者との接点も期待できる ・地域で子どもを育てる仕組みが必要
2. コミュニティ地区、行政区の役割分担 ①コミュニティ地区 ・コミュニティ地区の役割は高齢者支援、子育て支援、防災である⇔地域の役割はそれぞれである ・コミュニティ会議の規模により違いがある。コミュニティ会議について話す場合、一色単には言えない ・地域の子どもを守っていく ・老人クラブのリーダー育成 ・地域づくりがプロの仕事化している？親睦や支え合いなど本来はもっと気軽なものではないか ②行政区 ・行政区長の役割は地域によって違う。 ・行政区長等の負担増、なり手不足や持ち回りになっている	・安心して暮らせる地域づくり、普段の幸せが一番大事ではないか ・防災など、個人情報の問題もあり、広域による支援のしくみも必要 ・コミュニティ会議と行政区長の連携は大切	①コミュニティ地区 ・総意の基盤は顔の見える自治会。コミュニティは生涯学習など大きな視点で補完する役割（人づくりや交流等） ・地域で孤立する人を出さないような取り組みに力を入れる ②行政区 ・行政区長の役割の明確化が必要 ・行政区長の役割の勉強会が必要 ・人口減少により、地域の会長、行政区長の役職をたくさん取れなくなる。そうなった時のために、連携していくことが必要

③行政との連携の充実 ～大きな課題に向かって力を合わせていくためには～

第1回：主な意見（現状・課題）	第2回：主な意見（解決の方向）	第3回：主な意見（今後の方向について）
・1行政区1自治会。やりやすいが業務が負担 ・行政区内に複数の自治会。そのため行政区長がその業務を自治会長に丸投げ ・行政区長は地域の取りまとめ⇔行政区長は連絡員、パイプ役。 ・地域をまとめるのは自治会長の役割 ・行政区長は、広報配布のみ。生活環境の整備要望は町内会 ・大迫：自治会長＝行政区長＝コミュ副会長。行政区長の負担は大きい、コミュニティ会議の事業＝自治会事業 ・東和：ほぼ行政区長＝自治会長。地元とのつながりが重要。責任が大きい ・道路舗装の優先順位は区長会⇔コミュニティ会議 ・道路要望など行政区長またコミュニティ会議の役割 ・行政区長が地域のまとめ役でない場合は、地域の課題等話しが伝わらない。誰に話を持っていけばよいのか？		
3 職員と地域のつながりが薄くなっている？ ・多忙でなかなか地域のことに参加できないので、意見を出しづらい ・若い層や女性が少ないので参加しにくい ・地域の人を良く知らない、入っていきづらい ・コミュニティのことを、そもそも職員が知らない	・住民活動に職員が入ってくると事務的に助かる ・職員が地域のために使う有休制度などがあれば良いと思う	・職員が地域活動を支援する仕組み

5 まとめ

平成30年度においては、他事例を学びながら現状・課題を把握し、その方向性について意見交換を行った。懇談を進めるうえで、花巻市の地域自治の仕組みの多様な地域性や、地域ごとの異なる課題があり、一律に対応することの難しさが見えてきた。次年度においても、多くの地域に共通する課題に着目しながら、継続して地域自治のあり方について意見を伺うこととしています。

花巻市地域自治に関する懇談会設置要綱

(設置目的)

第1条 花巻市の持続可能な地域自治を推進するため、地域自治を担う組織やその制度のあり方について意見交換を行う場として、花巻市地域自治に関する懇談会（以下「懇談会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 懇談会は、持続可能な地域自治を推進するにあたり、次に掲げる事項についての意見交換を行う。

- (1) 地域課題及び地域自治を担う組織の仕組みの再構築に関すること。
- (2) その他前条の目的を達するために必要な事項に関すること。

(運営)

第3条 懇談会は、別表に掲げる座長、副座長及び委員で構成する。

2 懇談会は、地域振興部長が招集し、座長が主宰する。

3 副座長は、座長を補佐し、座長に事故があるとき、又は座長が欠けたときは、その職務を代理する。

4 会議は原則として公開とする。ただし、座長又は地域振興部長が特に必要と認めるときは、非公開とすることができる。

(任期等)

第4条 懇談会の委員等の任期は、平成31年3月31日までの期間とする。

(庶務)

第5条 懇談会の庶務は、地域振興部地域づくり課において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか懇談会の運営に関し必要な事項は、地域振興部長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成30年8月10日から施行する。